



12月28日発売
定価: 本体1,200円 + 税
新書判 / 272ページ
ISBN978-4-09-343445-4

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09343445>

日本の成り立ちを現地取材で謎解き

日本はこうしてつくられた
大和を都に選んだ古代王権の謎
安部龍太郎・著

直木賞作家・安部龍太郎氏渾身の歴史紀行。〈古代日本人はなぜ大和の地を中央集権的な都として選んだのか?〉という大命題を読み解く章からスタート。以下、〈国譲り神話をめぐる出雲と大和の関係〉、〈文字がまだなかった時代に雲から出土した硯の謎〉、〈神武天皇上陸伝承地・熊野〉、〈徐福上陸地から出土した秦の半両銭〉、〈中世の天皇家が繰り返し参詣した熊野三山の絶景〉、〈奈良大仏と八幡神のふるさとの関係〉、〈対馬人の最前線だった国東半島〉、〈大和と密接な関係を築いた古代丹後王国〉、〈日本海三大古墳と大和の関係〉、〈対蝦夷の最前線軍事基地としての房総半島〉、〈最初の前方後円墳「箸墓古墳」と最後の前方後円墳「浅間山古墳」〉など、古代日本の成り立ちを丹念に解き明かします。

◆安部龍太郎(あべ・りゅうたろう)

昭和30年、福岡県生まれ。平成2年に作家デビュー。『信長燃ゆ』『関ヶ原連判状』などを刊行の後、平成16年、『天馬、翔ける』で第11回中山義秀文学賞を受賞。平成25年、『等伯』で第148回直木賞受賞。月刊『サライ』で紀行『半島をゆく』を連載中。



12月28日発売
定価: 本体2,500円 + 税
四六判 / 256ページ
ISBN978-4-09-388799-1

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09388799>

投稿型配信サービスnoteで連載配信し、のべ10万アクセス超えを記録した話題作です。

本書は、写真家の竹沢うるまさんが自身の心の中を巡礼するかのごとく、チベット仏教圏をめぐる旅の記録。標高四〇〇〇メートルを超える高所に、あるいはマイナス二十度を下回る厳冬期にと、あえて厳しい環境下へ向かわせた出来事とは一体何だったのか。そして、この旅で心にどんな変化が起きたのか。

旅行記『The Songlines』から6年、写真集『Kor La - コルラ』から4年。足かけ3年、チベット仏教圏を巡った折りの旅の記録は、待望の続編にして完結編です。

◆竹沢うるま(たけざわ・うるま)

1977年生まれ。写真家。2010年～2012年にかけて1021日103カ国を巡る旅を敢行し、写真集『Walkabout』(小学館)と、対になる旅行記『The Songlines』(小学館)を発表。2014年には第3回日経ナショナルジオグラフィック写真賞グランプリ受賞した。写真集『Kor La - コルラ』(小学館)は2016年刊。



1月7日発売
定価: 本体1,500円 + 税
四六判 / 200ページ
ISBN978-4-09-388806-6

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09388806>

ヴァイオリニスト・高嶋ちさ子が初めて著書で語る高嶋家のストーリー。『毒舌キャラ』と言われる彼女のルーツはここにあった!

そして、結婚・出産し新しく作っていく家庭でのドタバタな日々のドラマ。

・生まれ育った実家の「弱肉強食ルール」

・育児も手伝い「妻に逆らえるまで」成長した夫

・「プチ反抗期」に突入した2人の息子の子育て

・親友のようだった「デビル」な母との別れ

・高齢の父とダウン症の姉の2人暮らし……

ぶつかりながらも本音で生きる家族はやっぱり楽しい!

家族のきずなを改めて考える今の時代にこそ心に響く、元気が沸いてくる一冊です。

◆高嶋ちさ子(たかしま・ちさこ)

ヴァイオリニスト。桐朋学園大学を経て、イェール大学音楽学部大学院修士課程アーティスト・ディプロマコースを修了。年間100本近いコンサート活動に加え、『ザワつく!金曜日』(テレビ朝日系)にレギュラー出演中。その他、YouTubeチャンネルやラジオ、雑誌など各種メディアに出演、執筆など活動の場は多岐に渡る。

ふたつの旅、10年にわたる旅の記録の完結編

Rungrta
竹沢うるま・著

毒舌ヴァイオリニストが初めて明かす!

ダーリンの進化論
わが家の仁義ある戦い
高嶋ちさ子・著



1月14日発売
定価: 本体2,000円 + 税
四六判 / 262ページ
ISBN978-4-09-388805-9

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09388805>

◆驚田清一(わしだ・きよかず)

1949年、京都生まれ。京都大学大学院博士課程修了。大阪大学総長、京都市立芸術大学学長等を経て、現在、せんだいメディアテーク館長。主な著書に『モードの迷宮』(サントリー学芸賞)、『「聴く」ことの力』(桑原武夫学芸賞)、『「ぐずぐず」の理由』(読売文学賞)、『「待つ」ということ』など。

「つかう」という言葉の様相をさまざまな観点から考え抜いた一冊。ひとつつかう、道具をつかう、出汁につかう、楽器をつかう……、同じ「つかう」でもその意味はさまざま。この単語を契機に、意味を探り、使われ方の変遷を辿り、哲学はもちろん、民俗学、芸術学、料理本まで関係書物を渉猟し、考えを深めていきます。著者は、2015年4月から朝日新聞の朝刊に「折々のことば」を連載中の、現代哲学の第一人者である驚田清一氏。

「つかう」を介して人はどのように、ひとと、社会と、世界と拘わっているのかを深く考察します。

カバー写真と文中には、現代写真の先端で作品を発表し続ける、ヴォルフ・ガング・ティルマンズの写真を採用。アートにも親和性の高い一冊です。

つかう
使用論ノート
驚田清一・著

「つかう」を巡る、かくも深く、多様な論考



1月15日発売
定価: 本体1,700円 + 税
四六判 / 288ページ
ISBN978-4-09-388808-0

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09388808>

◆西川美和(にしかわ・みわ)

1974年、広島県出身。早稲田大学第一文学部卒業。在学中に是枝裕和監督作『ワンダフルライフ』(99)にスタッフとして参加。フリーランスの助監督として活動後、2002年に『蛇イチゴ』でオリジナル脚本・監督デビュー。

「ニヤニヤ、クスクス。これ、立派な映画作りの教則本です」役所広司

「ため息がでるほど、画には映らない想いがつまってる」仲野太賀

一貫してオリジナル脚本に拘ってきた映画監督が、長編6作目にして初めて自著ではない小説をもとにした作品のメガホンを取った。原案は、佐木隆三氏の『身分帳』。映画のタイトルは『すばらしき世界』だ。13年という刑期を終えた元殺人犯の人生を、舞台を昭和から現代に移して脚本化した。

『身分帳』との出会い、脚本執筆のために潜り込んだ婚活パーティ、一か八かで臨む列車内での撮影、コロナによる編集作業の休止など、着想から映画が完成するまでの日々を描くエッセイ集。2月11日の映画公開に先駆け書籍化。

スクリーンが待っている
西川美和・著

ああ、世界は奇跡に満ちていたんだな。



1月15日発売
定価: 本体1,600円 + 税
四六判 / 320ページ
ISBN978-4-09-388809-7

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09388809>

◆井沢元彦(いざわ・もとひこ)

作家。1954年、愛知県生まれ。早大法卒後、TBS入社。'80年、『猿丸幻視行』で江戸川乱歩賞を受賞。『逆説の日本史』シリーズは累計572万部突破のロングセラー。

◆千葉きよかず(ちば・きよかず)

漫画家。1961年、静岡県生まれ。村上もとか氏のアシスタントを経て、『赤いペガサスII・翔』でデビュー。近著に『ソラモリ』(原作/村上もとか)がある。

多くの日本人は、米国の黒船が突然、来航し強引に開国を迫った、と思っ
ています。実はその七年前に、ビッドルが浦賀に来航した際、浦賀奉行は使節を暴力で追い返していました。ペリーが来航した当初も、米国は友好親善を望んでいました。ところが、幕府が頑なにこれを拒否したため、結局、欧米列強から不平等条約を押しつけられ、最も不利益な形で開国することになってしまったのです。

日本の開国と近代化はなぜこうも遅れたのか? 幕末維新史の謎を、日本社会が「朱子学の毒」からいかに脱却したか、という視点で読み解きます。

572万部突破のベストセラー『逆説の日本史』の著者・井沢元彦氏が、気鋭の漫画家・千葉きよかず氏と強力タッグを組んだコミック化、待望の第3弾!

コミック版 逆説の日本史
幕末維新編
井沢元彦・原作・脚本 / 千葉きよかず・漫画

日本の開国と近代化はなぜ遅れたのか?

第2回「日本おいしい小説大賞」受賞作！

私のカレーを食べてください

幸村しゅう・著

古びた喫茶店の装いながら、本格的なスパイスカレーを出す「麝香猫」。そこで働く山崎成美は調理師学校に通う19歳。成美は幼い頃に両親が離婚、育ててくれた祖母も失踪してしまい、天涯孤独の身であった。

そんな彼女の運命を変えたのは、小学校の先生が作ってくれた一杯のカレーライス。成美はその味を自分でも作りたい一心で調理を始め、カレーの奥深さに戸惑いながらも、ようやくきつかけを掴みはじめていた。しかし突然ある事情から「麝香猫」が店を閉めることになってしまい……。理想のカレーを追い求める少女と人々の人情が織りなす、青春×お仕事小説。スパイス料理研究家・印度カレー子氏による特製カレーレシピも収録！

第2回「日本おいしい小説大賞」受賞作！



1月22日発売

定価：本体1,600円＋税

四六判／272ページ

ISBN978-4-09-386605-7

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09386605>

◆幸村しゅう (ゆきむら・しゅう)

映画助監督、介護予防サービス兼鍼灸治療院の経営などを経て、小説を書き始める。

寝落ちする人続出の安眠リラックスヨガ

寝る前10分魔法の寝落ちヨガ

Bilife・著

チャンネル登録者数110万人、No.1ヨガYouTuberの夜のリラックスヨガ。ライブレッスンでは、あまりの気持ちよさに寝落ちする人が続出！コロナ禍のストレスや疲労を取り除いて、ぐっすり眠れます。



1月14日発売

定価：本体1,400円＋税

A5判／144ページ

ISBN978-4-09-310674-0

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09310674>

カリーングを知らばもっと楽しく観戦できる

まんがでわかるカリーングの見方!!

市川美余がとっておきの話をデリバリ！

深山雪男・まんが／市川美余・監

カリーングって何を叫びながら石を掃いているんだろう？「もぐもぐタイム」では、何を話し合っているの？そんな素朴な疑問を持った父娘に元日本代表のカーラー・市川さんが、まんがを交え丁寧に解説します。



1月20日発売

定価：本体1,400円＋税

四六判／160ページ

ISBN978-4-09-388810-3

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09388810>

いつだって、僕は本と生きてきた。
「P+D BOOKS」今月のラインアップ

大陸の細道

木山捷平・著

終戦直前、とある公社の嘱託として満州に赴いた木山正介は、寒さは厳しいが自由がきく日々をそれなりに楽しんでた。だが、突然召集令状が舞い込んでくる。彼の地での日常を、生々しくユーモラスに描いた傑作。

定価：本体550円＋税 B6判／272ページ

ISBN978-4-09-352407-0

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09352407>

貝がらと海の音

庄野潤三・著

もつと結婚50周年を迎える夫婦の飾らない日々を綴った作品。孫たちの成長、近所さんが届けてくれる季節の風物など、身のまわりの何気ない日常を、まるで花を育てるように丹念に描く。まさに庄野潤三の世界。

定価：本体600円＋税 B6判／352ページ

ISBN978-4-09-352408-7

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09352408>

1月14日発売・配信（ペーパーバックとデジタルで同時、同価格）
<https://pbooks.jp>



小学館文庫

咆哮

アンドレアス・フェーア・著／酒寄進一・訳



◆アンドレアス・フェーア
1958年、ドイツ・バイエルン州生まれ。1991年からミステリ・ドラマの脚本家として活躍。2009年、本作でデビュー。本作のシリーズの他「弁護士ライゼンベルク」シリーズ（東京創元社）で知られる。

1月4日発売
定価：本体1,050円＋税
文庫／416ページ
ISBN978-4-09-406803-0

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406803>

小学館文庫

ラスト・トリアル

ロバート・ベイリー・著／吉野弘人・訳



◆ロバート・ベイリー
アラバマ大学を卒業後、弁護士に。2014年ザ・プロフェッサーで作家デビュー。以後、シリーズ続編『黒と白のはざま』『ラスト・トリアル』『The Final Reckoning』等を発表。

1月4日発売
定価：本体1,100円＋税
文庫／560ページ
ISBN978-4-09-406820-7

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406820>

小学館文庫

祇園「よし屋」の女医者

藤元登四郎・著



◆藤元登四郎（ふじもと としろう）
宮崎県生まれ。東京大学医学部を卒業後、渡仏して神経精神医学を研究。精神科医。日本SF作家クラブ会員。時代小説は、本作が初めて。

1月4日発売
定価：本体750円＋税
文庫／352ページ
ISBN978-4-09-406860-3

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406860>

小学館文庫

荒野の古本屋

森岡督行・著



◆森岡督行（もりおか とうき）
株式会社森岡書店代表。1974年、山形県生まれ。2015年に「本の森を売る」がテーマの「森岡書店 銀座」をオープンし、国内外の注目を集めている。

1月4日発売
定価：本体560円＋税
文庫／240ページ
ISBN978-4-09-406861-0

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406861>

ドイツ・ミステリの女王ネレ・ノイハウスと併称される、ドイツ No.1 ミステリ作家のデビュー作（二〇一〇年ドイツ推理作家協会賞新人賞受賞作）、初の邦訳！ ドイツ南部ミースバッハ郡の小さな湖で、厚く凍りついた氷の下から少女の死体が発見された。謝肉祭のプリンスのようなドレスを着て、口の中には数字が書かれたブリキのバツジが押し込まれていた。ミースバッハ刑事警察署のヴァルナー首席警部が捜査の指揮を執ることになるのだが、翌日そのヴァルナーの自宅の屋根上で二人目の死体が見つかる。読み始めたら止まらない傑作警察小説！

相棒リックが「一時的に」マクマートリー＆ドレイク法律事務所」を離れ、一人で弁護士業務を請け負うことになったトム。そのさなか、事務所に一人の少女が現れ、殺人事件の容疑者として逮捕された母親の弁護をトムに依頼する。被害者は彼らの宿敵。母親は因縁の人物。そして、法廷で闘う相手は無二の友人たちだった――。

自身に忍び寄る影に不安を抱きながら、どう見ても勝ち目はない裁判に挑む不屈の老弁護士。彼と彼を全力で支える者たち、そして全力で立ち向かう者たちを描く胸アツ法廷シリーズ、熱い涙に濡れる待望の第三弾！

文化五年（一八〇八）、京都・祇園末吉町で五十年以上続くお茶屋「よし屋」の一人娘・月江は、日々舞妓の修行に勤しんでいた。この年十六になる月江は、いずれば母親の跡を継ぎ「よし屋」の女将になることを望まれていたが、ある日、常連の医師・小島源齋がよし屋を訪れ、月江を預かって女医者にしたいと申し出る。源齋の言いように当初は腹を立てた母親だったが、月江の思いを汲んで源齋の手伝いを許してくれた。療治所で医学書の筆写を始めた月江は、やがて生糸問屋の娘の治療に駆り出され……。

現役の医師である著者による、さわやかな医療時代小説！

「わたしの口は衝動的に動いていた。『ここで古本屋をやりたいです』。ベストセラーとして話題を呼んだ単行本がついに文庫化！ 前代未聞の「一冊の本だけを売る書店」として、今や国内はもとより海外からも注目を集める銀座「森岡書店」。その人気書店誕生前夜の物語。大学卒業後、本と散歩に明け暮れたモラトリアム期、神保町の老舗古書店で日々勤しんだ修業時代、その後、茅場町というビジネス街で古書店を成功させるまでをリリカルに描く。本を愛する人、書店を開いてみたい人、書店に関わる人すべて必読の一冊。解説はエッセイストの酒井順子さん。

小学館文庫

俺はエージェント

大沢在昌・著

スパイ小説好きのフリーター青年・村井が馴染みの居酒屋からアパートに戻ると、常連客の白川老人が訪ねてきた。何でも現役エージェントに復帰する秘密指令がバレてしまい、怪しい男たちに命を狙われているという。オメガの復活を阻止すべく、敵対するアルファ・エージェントの殺し屋たちが次々と村井たちに襲いかかる。絶体絶命、逃げ道はどこにもない。だが、何かがおかしい。裏切り者は誰か？ 誰が味方で誰が敵なのか、誰にもわからない。年齢差四十歳以上の「迷コンビ」が、逃げて、逃げて、巨悪の陰謀を追いつめる。ぶつちぎりのサスペンス巨編!!



◆大沢在昌(おおさわありまさ)
1956年、名古屋生まれ。91年「新宿区で日本推理作家協会賞と吉川英治文学新人賞を受賞。94年「新宿区無間人形」で直木賞を受賞。その他、日本冒険小説大賞、日本ミステリー文学大賞、柴田錬三郎賞、吉川英治文学賞など、受賞作品多数。

1月4日発売
定価: 本体1050円 + 税
文庫 / 656ページ
ISBN978-4-09-406862-7

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406862>

小学館文庫

ロックンロール・トーキョー

木下半太・著

映画監督を夢見て上京してきた木村勇太は、方南町のアパートで妻・千春と劇団「チームKGB」のメンバー三人と暮らし始める。秋葉原でストリートパフォーマンスをしたり、映画のオーディションを受けたり、必死にもがき続ける勇太たち。しかし現実には甘くはなかった。公演を打つ金はなく、バイトをすれば稽古の時間が削られる。次第に行き詰まる中、勇太に巡ってきた「小説の執筆」という千載一遇のチャンス。しかし、その先に待ち受けていたのは、さらなる試練の連続だった。夢の続きがここに！ 半自伝的青春小説、待望の第二弾！



◆木下半太(きのしたはんた)
1974年、大阪府出身。作家、劇団「浪谷ニコルソンズ」主宰。『悪夢のエレベーター』や、『サンフランノイチ』『鈴木ごっこ』他、映像化作品多数。2020年、映画「ロックンロール・ストリップ」では自ら監督脚本を務めた。

1月4日発売
定価: 本体700円 + 税
文庫 / 320ページ
ISBN978-4-09-406863-4

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406863>

小学館文庫

スギハラ・サバイバル

手嶋龍一・著

9・11同時多発テロ、リーマン・ショックほか、世界の激動のたびに、マネーは大暴落した。だが、その裏では事前にドルを売り抜き、有り余る資金を懐にした一部の投資家がいた。一体どうして。
いま再び金融マーケットに異変が起きている——調査に乗り出した英国情報部員ステイブンは、国境を越えるマネー資本主義の源流に、「謀報の天才」と呼ばれた戦前の外交官・杉原千蔵の影を見た。ベストセラー『ウルトラ・ダラー』続編。



◆手嶋龍一(てしまりゅういち)
作家、外交ジャーナリスト。元NHKワシントン支局長。独立後に上梓したインテリジェンス小説『ウルトラ・ダラー』、続編の『スギハラ・サバイバル』がベストセラーに。

1月4日発売
定価: 本体850円 + 税
文庫 / 464ページ
ISBN978-4-09-406864-1

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406864>

File

File

File

file

file

File

File

File

File

小学館文庫

コールドウォー DASPA 吉良大介

榎本憲男・著

2019年の暮れ、DASPA（国家防衛安全保障会議）インテリジェンス班サブチエアマンの吉良大介は、ダークウェブの賭博サイトに、2020年東京オリンピックは開催されるかという不吉な賭けを発見する。そして、年が明けると同時に、新型コロナウイルスによる感染は急速に拡大し、ついにオリンピックの年内中止が発表され、「自粛」生活へと突入する。そんな中、この空気に抗い、あるベテランミュージシャンは、浅倉マリと愚か者の集いという大規模ライブを開催しようとする。『インフォデミック 調査長 真行寺弘道』とリンクする問題小説。

◆榎本憲男（えのもと のりお）
1966年、和歌山県生まれ。15年「エア20」で注目を集める。その後人気シリーズ「調査長 真行寺弘道」同小説とリンクする「DASPA 吉良大介」を刊行。

1月4日発売
定価：本体850円＋税
文庫／480ページ
ISBN978-4-09-406865-8



<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406865>

小学館文庫

国防特行班 E510 神野オキナ・著

三輪出雲一佐は、出頭を願い出たスパイを保護するため、現場へ向かっていた。数年前に「死んだはず」の出雲は、防衛省内の不祥事を始末する秘密部署の隊長を務めているのだ。だが現場に入ると、目標の男は殺されていた。訝しむ出雲の前に現れたのは、公安警察の「ゼロ」と呼ばれる非合法部署の班長・荻窪冴子だった。互いに銃を構えたまま、睨み合いが続くふたり。先に動いたのは——どちらでもなかった。突然、外から火炎瓶が投げ込まれ、さらに狙撃が加わる。一体何者が？ 最近不審な動きをしている中国の諜報機関なのか？ 防護工作アクション！

◆神野オキナ（かみの おきな）
1970年、沖縄県生まれ。99年「関色の戦天使」にて小説家デビュー。2018年「カミカゼの邦」が第20回大蔵省文学賞候補作となる。主な著書に「警察庁私設特務部隊 KUDAN」シリーズがある。

1月4日発売
定価：本体740円＋税
文庫／352ページ
ISBN978-4-09-406866-5



<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406866>

小学館文庫（キャラバン！）

死神の初恋 犠牲の花嫁は愛を招く

朝比奈希夜・著／榎空也・イラスト

家を失い、今は小石川にある新華族の屋敷で使用人として働く元子爵令嬢の娘・千鶴。近頃帝都で猛威を振るう流行病が、死神の怒りによるものと考えた人々により、千鶴は生贄の花嫁に選ばれてしまうが――。

定価：本体620円＋税 256ページ
ISBN978-4-09-406870-2
<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406870>

蟲愛づる姫君の永遠

宮野美嘉・著／碧風羽・イラスト

相も変わらず蟲を偏愛する妻・玲琳と、そんな妻に日々ひどい目に遭わされながらも彼女を愛する夫にして、魁国の王・鎧牙。ようやく夫婦らしくなってきた……と思った矢先、玲琳に求婚者が現れて!? シリーズ第5巻！

定価：本体640円＋税 288ページ
ISBN978-4-09-406871-9
<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406871>
1月4日発売 文庫判

File

File

File

file

file

File

File

File

File

小学館時代小説文庫

春風同心十手日記(二)
黒い染み
佐々木裕一・著

定町廻り同心の夏木慎吾は、亡骸にしがみつき、泣いているお百合に胸を痛めていた。殺されたのは、三日前に祝言を挙げるはずだった、油問屋西原屋の跡取りの清太郎。首を絞められ、大川に突き落とされたらしい。泣き止んだお百合がふいに訴えた。「あたし、下手人を知っています」——思いもよらぬ言葉に、慎吾と岡つ引きの五六蔵は驚いた。お百合は、以前から不審な男に付きまとわれていたというのだ。すると、その男がお百合を想うあまり、邪魔な清太郎を殺したというのか？ まずは、女医の国元華山に検屍を頼んだ慎吾だったが……。



◆佐々木裕一(ささき ゆういち)
1967年、広島県生まれ。2003年架空戦記『ネオ・ワールドウォー』でデビュー。10年『浪人若さま新見左近』の剣で一躍人気作家へ。主なシリーズに『公家武者信平』『身代わり若殿』がある。
1月4日発売
定価: 本体640円+税
文庫/272ページ
ISBN978-4-09-406867-2

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406867>

小学館時代小説文庫

帝都の用心棒 血刀数珠丸
馳月基矢・著

「妖刀が人を斬っている」と噂を聞いた帝大教授の山川健次郎は、真相を突き止めてほしいと、刀嫌いの剣術家・加能碧一と、全身に武器を仕込む用心棒・行成光雄に依頼した。早速、刀剣蒐集家ウィルソンの邸へ赴くふたり。彼が蔵する名刀四谷正宗こと、源清麿が血染めになっていたらしいのだ。拵えの装飾には蜘蛛が施されていたというが、近頃富裕層を取り込みつつある謎の組織(蜘蛛の会)を主宰し、異常な力を使うと言われる妖女・多摩峰トワ子が関係しているのか？ 藤田五郎翁も助太刀するが……。大正ノワール日本刀アクション！



◆馳月基矢(せつき もとや)
1966年、長崎県生まれ。京都大学大学院修士課程修了。2019年、小学館第1回日本おもしろ小説大賞の最終選考に残る。20年、デビュー作の姉上は麗しの名匠で、日本歴史時代作家協会文庫書き下ろし新人賞を受賞。
1月4日発売
定価: 本体700円+税
文庫/320ページ
ISBN978-4-09-406868-9

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406868>

小学館時代小説文庫

新・口中医桂助事件帖
志保のバラ
和田はつ子・著

アメリカで最新の口中医療を学んだ藤屋桂助は、妻の志保、親友の銅次家族とともに明治の日本に帰ってきた。帰国の船上、乗客の一人が何者かに殺害され、銅次の妻・美鈴が高熱に倒れるが……。桂助が解き明かした真相とは！(へいしゃ・はくち)に戻った桂助のもとに、旧知の仲間たちが事件の相談もあつて相次いで訪れる。痛まない治療のために必要な、麻酔薬の入手が難しいことに悩む桂助。そんな時、將軍職を退いた徳川慶喜が、かつての家臣・沢沢栄一を連れて治療にやってくる。東京を舞台に桂助が大活躍する、「口中医桂助事件帖」シリーズ待望の続編が登場！



◆和田はつ子(わだ はつこ)
東京都生まれ。出版社勤務の後、作家デビュー。ミステリーやホラーを執筆後、今は時代小説を中心に精力的に発表している。「料理人・金蔵捕物」の姉上は麗しの名匠で、日本歴史時代作家協会文庫書き下ろし新人賞を受賞。
1月4日発売
定価: 本体720円+税
文庫/336ページ
ISBN978-4-09-406869-6

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09406869>

File

File

File

file

file

File

File

File

File